

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-727

(P2001-727A)

(43) 公開日 平成13年1月9日(2001.1.9)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード [*] (参考)
A 6 3 F 7/02	3 5 2	A 6 3 F 7/02	3 5 2 F
	3 3 2		3 3 2 B
	3 5 3		3 5 3
	3 5 4		3 5 4

審査請求 有 請求項の数 6 O L (全 17 頁)

(21) 出願番号 特願2000-170852(P2000-170852)
(62) 分割の表示 特願2000-135081(P2000-135081)の
分割
(22) 出願日 平成3年2月2日(1991.2.2)

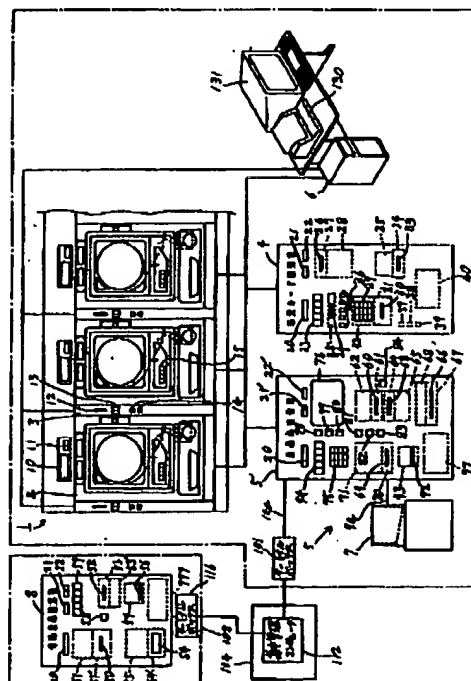
(71) 出願人 000144153
株式会社三共
群馬県桐生市境野町6丁目460番地
(72) 発明者 嶋川 昭八
群馬県桐生市相生町1丁目164番地
(74) 代理人 100064746
弁理士 深見 久郎 (外2名)

(54) 【発明の名称】 景品管理装置

(57) 【要約】

【課題】 所定の会員向けに発行された景品カードを利用して遊技場の経営面の負担を抑えながらも多くの種類の景品の中から遊技者が選択入手できるようにするために用いられる景品処理装置を提供する。

【解決手段】 遊技者がパチンコ機2により遊技を行なった結果その遊技者に付与される景品玉を用いて景品交換を行なう際に使用される景品処理装置であって、遊技者に付与された景品玉を計数してその景品玉が有する景品金額の大きさを算出する景品玉計数器7と、景品金額が特定可能な情報が記録される景品カード136を所定の会員としての遊技者に発行するとともに、その発行された景品カード136により特定される景品金額に対し、前記景品玉計数器7によって算出された景品金額を加算可能な景品カード識別機61を含む。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 遊技者が遊技機により遊技を行なった結果その遊技者に付与される価値物体を用いて景品交換を行なう際に使用される景品処理装置であって、有価値が特定可能な情報が記録される会員用記録媒体を所定の会員としての遊技者に発行する会員用記録媒体発行手段と、前記遊技者に付与された価値物体を計数して該価値物体が有する付与有価値の大きさを算出する算出手段と、前記発行された会員用記録媒体により特定される有価値に対し、前記算出手段によって算出された付与有価値を加算可能な有価値加算手段と、を含むことを特徴とする、景品処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、景品処理装置に関し、詳しくは、遊技者が遊技機により遊技を行なった結果その遊技者に付与される価値物体を用いて景品交換を行なう際に使用される景品処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、景品交換を行なうにおいては、たとえば、遊技終了時に遊技者に付与される価値物体を遊技場に設置されている所定の場所（たとえば景品交換所）で計数してもらい、その計数された価値物体の付与有価値の範囲内で遊技者が希望する商品等の景品に交換してもらっていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、このような従来の景品交換の方法においては、遊技者が遊技を行なった結果いくら多くの価値物体を獲得したとしても、遊技場が仕入れた商品やサービス等の非常に限られた範囲内でしか景品を選ぶことができず、遊技者の希望する景品が存在しない場合が多々あった。

【0004】この問題を解決するべく、遊技場で取扱う商品やサービス等の景品の種類を増やした場合には、その景品を陳列する広い場所を要することになり、その分遊技機を設置する場所が犠牲になってしまい、遊技場の経営が悪化し遊技場に経営面での大きな負担を強いる不都合が生ずる。

【0005】そこで、所定の会員向けに会員用記録媒体を発行し、比較的多数の商品やサービス等の売買対象を販売している会員用記録媒体取扱店において前記会員用記録媒体を所持している会員がその多くの売買対象の中から景品交換できるように構成し、前述した不都合を解決することが考えられる。

【0006】本発明は、係る実情に鑑み、所定の会員向けに発行された会員用記録媒体を利用して遊技場の経営面の負担を抑えながらも多くの種類の景品の中から遊技者が希望するものを選択入手できるようにするために用いられる景品処理装置を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明は、遊技者が遊技機により遊技を行なった結果その遊技者に付与される価値物体を用いて景品交換を行なう際に使用される景品処理装置であって、有価値が特定可能な情報が記録される会員用記録媒体を所定の会員としての遊技者に発行する会員用記録媒体発行手段と、前記遊技者に付与された価値物体を計数して該価値物体が有する付与有価値の大きさを算出する算出手段と、前記発行された会員用記録媒体により特定される有価値に対し、前記算出手段によって算出された付与有価値を加算可能な有価値加算手段と、を含むことを特徴とする。

【0008】

【作用】本発明によれば、会員用記録媒体発行手段の働きにより、有価値が特定可能な情報が特定される会員用記憶媒体が所定の会員に発行される。そして、遊技の結果遊技者に付与された価値物体を前記会員用記録媒体によって特定される有価値に加算する場合は、まず、遊技者に付与された前記価値物体を算出手段により計数してその価値物体に相当する付与有価値の大きさを算出し、次に、有価値加算手段により、前記付与有価値を前記会員用記録媒体により特定される有価値に対し加算する。

【0009】つまり、多くの商品やサービス等の売買対象を販売している会員用記録媒体取扱店等において使用可能な会員用記録媒体により特定される有価値に対し前記付与有価値を加算させることができるために、前記付与有価値を会員用記録媒体を用いた景品交換に使用することができる。

【0010】

【発明の実施の形態】次に、本発明の実施例を図面に基いて説明する。

【0011】第1図は、本発明に係る遊技用管理設備装置の全体の概略を示すシステムブロック図である。

【0012】図中103は玉貸カード発行会社であり、CPU、RAM、ROM等を内蔵するホール別売上集計用の集中管理コンピュータ111が設置されている。この玉貸カード発行会社103からは玉貸カード134（第3B図参照）が発行されて各遊技場100、101…に出荷される。なお、玉貸カード134は玉貸カード販売機4で販売する時に情報を書込むようにしてもよいし、予め情報を書込んでおくようにしてもよい。各遊技場100、101…と玉貸カード発行会社103の集中管理コンピュータ111とは各遊技場100、101…に設置されているターミナルボックス109と通信回線により接続されており、情報の伝達が可能に構成されている。

【0013】なお、遊技場101については、遊技場100と同様の構成を有しているためにここでは、詳細な説明および図示を省略する。

【0014】図中104は会員用記録媒体発行センターの一例の景品カード発行会社であり、CPU、RAM、ROM等を内蔵する集中管理コンピュータ112が設置されている。この集中管理コンピュータ112と各遊技場100、101…に設置されているターミナルボックス110とが通信回線により接続されており情報の伝達が可能に構成されている。図中105、106、107は、景品カード発行会社104に加盟している会員用記録媒体取扱店の一例の加盟店であり、それぞれに、CPU、RAM、ROMを内蔵する加盟店用管理コンピュータ119、120、121が設置されている。それらの加盟店用管理コンピュータ119、120、121と景品カード発行会社の集中管理コンピュータ112とが通信回線により接続されており、情報の伝達が可能に構成されている。なお、加盟店107には、前記玉貸カード発行会社103から発行された玉貸カード134を顧客に販売するための玉貸カード販売機122が設置されており、その玉貸カード販売機122と景品カード発行会社104の集中管理コンピュータ112とがターミナルボックス123を介して通信回線により接続されており、情報の伝達が可能に構成されている。さらに、玉貸カード販売機122と玉貸カード発行会社103の集中管理コンピュータ111とがターミナルボックス124を介して通信回線により接続されており、情報の伝達が可能に構成されている。

【0015】図中108は銀行であり、CPU、RAM、ROM等を内蔵するコンピュータ等からなる中央装置117が設置されている。この中央装置117はデータベース118を含み、このデータベース118には、各遊技場100、101や玉貸カード発行会社103、景品カード発行会社104、各加盟店105、106、107等の口座およびそれらの口座に預金されている預金金額等が記憶されている。データベース118内に図示された記号A、B、C、D、E、F、Gは、それぞれ玉貸カード発行会社103、遊技場100、遊技場101、加盟店105、加盟店106、加盟店107、景品カード発行会社104のそれぞれの口座を示し、図示された矢印は、ある口座から他の口座に矢印方向に金がることを意味している。

【0016】玉貸カード発行会社103から遊技場100に出荷された玉貸カード134は玉貸カード販売機4により利用者（遊技者）に販売される。利用者は代金または後述する会員用記録媒体の一例の景品カード136（図5参照）を玉貸カード販売機4に挿入することにより所定の金額が記録された玉貸カードが付与される。利用者は遊技場に設置されている複数の遊技機の一例のパチンコ機2の中から遊技してみたいパチンコ機2に対応したカード処理機（カード玉貸機）3に前記玉貸カードを挿入する。そしてその玉貸カードに記録されている金額を使用することによりパチンコ機2に遊技玉が払出さ

れて遊技が可能となる。

【0017】そして、遊技が終了すれば、遊技に使用した金額だけ玉貸カード134に記録されている金額が減額更新されてその残額が記録された玉貸カード134が遊技者に払出されるとともに、遊技機による遊技の結果遊技者に付与される付与有価価値の一例の景品玉が利用者に払出される。利用者は、その払出された景品玉を景品処理装置5の景品玉計数器7（図2参照）に投入し、その投入された景品玉数が計数される。この景品処理装置5は、投入された景品玉数に相当する有価価値の範囲内で、景品カード136（図5参照）に記録されている有価価値の加算更新をしたり、特殊景品138（図6参照）との交換を可能にしたり、玉数カード134（図4参照）を発行したりする機能を有する。さらに、この景品処理装置5は、景品カード136を新規発行する機能も有する。この景品カード136とは、所定の会員向けに発行される会員用のカードであり、この景品カードにより、所定の会員向けに発行された会員用記録媒体が構成されている。発行された玉数カード19を利用者がカウンタ114に設けられている玉数カード読取装置500に挿入してその玉数カード19に記録されている玉数情報を読取ってもらい、その読取った玉数情報の範囲内でたばこやチョコレート等の一般景品との交換が可能に構成されている。

【0018】遊技場100内に設置された玉貸カード販売機4、カード処理機3、パチンコ機2、景品処理装置5、玉数カード読取装置500はそれぞれホール用管理コンピュータ6に接続されており、情報の伝達が可能に構成される。このホール用管理コンピュータ6は、CPU、RAM、ROM等を内蔵しており、玉貸カード販売金額、玉貸カード使用金額、パチンコ機2の利益球数や不利益球数、景品処理装置5によって計数された景品玉の個数データ、玉数カードを使用しての一般景品の交換額情報、景品カードの増額更新情報、景品カードの新規発行情報、特殊景品の交換額情報等の遊技場で発生する種々の情報を集中管理する。なお、景品処理装置5によって発行された玉数カードは、当該遊技場100でかつ当日限りという条件で景品交換することが可能なものである。この玉数カード19に記録されている玉数情報と同じ情報がホール用管理コンピュータ6にも記憶されており、玉数カード19が使用されてその記憶玉数が減額更新される毎にホール用管理コンピュータ6の対応する玉数情報も減額更新され、玉数カード19が使用される毎にその玉数カード19に記録されている玉数情報とホール用管理コンピュータに記憶されている玉数情報とが一致するか否かをチェックするいわゆる背番号管理が行なわれている。利用者に払出された景品カード136を玉貸カード販売機4に挿入してその景品カードに記録されている有価価値の範囲内で利用者が玉貸カード134を購入することができる。

【0019】遊技場100に設置されている玉貸カード販売機4の景品カード使用による売上額（販売額）に関する情報がターミナルボックス110を介して通信回線により景品カード発行会社104の集中管理コンピュータ112に伝送される。なおこのターミナルボックス110と集中管理コンピュータ112とは必ずしもオンラインにより接続する必要はなく、玉貸カード販売額を集計してその集計金額を記載した伝票等を作成し、その伝票等によるオフラインにより玉貸カード販売額を集中管理コンピュータ112に入力してもよい。

【0020】また、遊技場内に特殊景品交換装置を設け、利用者が払出された特殊景品をこの特殊景品交換装置に挿入することによりその挿入された特殊景品138に相当する金額の現金が利用者に払出されるようにしてもよい。なお、現金の払出しの代わりに利用者の景品カード136の残額を増額更新するようにしてもよい。この特殊景品交換装置を設ける場合には、その特殊景品交換装置をターミナルボックスを介して景品カード発行会社104の集中管理コンピュータ112に接続し、特殊景品138の景品カード発行会社104への入庫額が集中管理コンピュータ112に伝送されるように構成するのが望ましい。

【0021】なお、この特殊景品交換装置や景品処理装置5を遊技場の外に設けられた景品交換所に設置してもよい。

【0022】一方、後述するカタログによる景品交換ではなく実際にその景品を目で見て確かめて購入したいという利用者は、景品カード136を持参して加盟店106に行き、その景品カード136を加盟店106に設置されている景品処理装置9に挿入し、加盟店106で販売されている商品やサービス等の売買対象からなる景品で自己の欲するものの種類や個数を景品処理装置9に入力する。するとその入力された景品に相当する金額が景品カード136の残額から減算されて減算された後の景品カード136が利用者に返却される。このようにして利用者は目で実際に景品を見て確かめて入手することもできる。なお、景品カード発行会社104の集中管理コンピュータ112と各加盟店105、106、107に設置されている加盟店用管理コンピュータ119、120、121は必ずしもオンラインにより接続する必要はなく、遊技場100、101から送信されてきた景品番号や景品個数ならびにその景品番号に対応する利用者の住所、氏名、電話番号等を集計して伝票等に記入し定期的に一括してオフラインにより各加盟店105、106、107に送るようにしてもよい。

【0023】特殊景品を現金に交換する特殊景品交換装置8が銀行108に設置されており、利用者は自己の所有する特殊景品を銀行108に持参しその特殊景品を銀行108に設置されている特殊景品交換装置8に挿入して現金に交換することができる。この銀行108に設置

されている特殊景品交換装置8はターミナルボックス116を介して景品カード発行会社104の集中管理コンピュータ112に通信回線で接続されており、特殊景品138の交換額がターミナルボックス116を介して集中管理コンピュータ112に伝送されるように構成されている。

【0024】景品カード発行会社104の集中管理コンピュータ112と銀行108のデータベース118とが通信回線により接続されており、集中管理コンピュータ112からデータベース118に次のような情報が伝送される。すなわち、遊技場100、101に設けられている景品処理装置5によって増額更新された景品カードの増額更新額情報、遊技場100、101に設けられている玉貸カード販売機4を利用して景品カードにより玉貸カードが販売されたその玉貸カード売上額情報、各加盟店105、106、107での景品カードを使用した景品の売上額情報（景品交換額情報）等が伝送される。一方、玉貸カード販売会社103の集中管理コンピュータ111からは、遊技場100、101において販売された玉貸カード金額の合計と遊技場100、101で玉貸カードが使用された使用金額合計との差額情報がデータベース118に伝送されてくる。さらに、加盟店107において販売された玉貸カード金額の合計（カード代金）情報が集中管理コンピュータ111からデータベース118に伝送されてくる。

【0025】データベース118では、前記各種伝送されてきた情報に基づいて、各口座間で図示矢印で示した方向に金を移動させる。すなわち、玉貸カード販売会社の口座Aと各遊技場の口座C、Bとの間で玉貸カードの販売金額の合計（カード代金）とカード処理機3によって使用された玉貸カードの使用金額合計との差額だけ金を移動させる。また、加盟店107における玉貸カードの販売金額の合計（カード代金）から手数料を差引いた金額が加盟店107の口座Fから玉貸カード販売会社103の口座Aに移動する。これによって、加盟店107は差引いた手数料分利益を得ることができる。遊技場100、101に設けられている玉貸カード販売機4を利用して景品カード136により販売された玉貸カード134の売上合計金額から手数料を差引いた金額が景品カード発行会社104の口座Gから各遊技場100、101の口座B、Cに移動する。各遊技場100、101に設けられている景品処理装置5によって増額更新された景品カードの増額更新額と各遊技場100、101が仕入れた特殊景品138の仕入代金に対し手数料を上乗せした金額の合計が各遊技場100、101の口座B、Cから景品カード発行会社104の口座Cに移動する。なお、実際には、口座GとC、Bとの間では、カード増額更新額および特殊景品仕入代金（手数料上乗せ）と売上額（手数料を差引く）とが相殺された金額だけが移動するようになる。さらに、各加盟店105、106、10

7での景品カード136を用いた景品の売上額(景品交換額)から手数料を差引いた金額が景品カード発行会社104の口座Gから各加盟店105、106、107の口座D、E、Fに移動する。

【0026】図2は、遊技場の要部および銀行に設けられた特殊景品交換装置(特殊景品精算機)を示す概略構成図である。

【0027】遊技場100に設置されている玉貸カード販売機4は、紙幣投入口26が設けられており、利用者(遊技者)が紙幣を紙幣投入口26から投入することによりその投入された紙幣が紙幣識別機27で識別され、偽札等の不適正な紙幣であった場合には利用者に返却されるが適正な紙幣であった場合には紙幣収納部28内に取込まれる。そして投入紙幣に相当する金額が金額表示器23により表示され、その表示額の範囲内で販売カード選択ボタン36を選択操作する。玉貸カード19には、たとえば、1000円、2000円、3000円、5000円、10000円の5種類の金額のカードがあり、販売カード選択ボタン36を選択して押圧操作することにより前記5種類の玉貸カード19のうち希望する玉貸カード19を指定することができる。この販売カード選択ボタン36を押圧することにより、その押圧操作によって指定された金額の玉貸カード19を玉貸カード収納部32から取出してその取出された玉貸カード19が選択指定された金額の玉貸カード19であるか否かを玉貸カード識別機31により識別し、選択された金額の玉貸カードであると識別された場合に玉貸カード払出口30からその玉貸カード19が払出される。その後、釣銭がある場合には釣銭紙幣払出装34が作動して釣銭紙幣払出口33から釣銭が利用者に払出される。なお図中40は制御部であり、玉貸カード販売機4を制御するためのマイクロコンピュータ等から構成されている。

【0028】この玉貸カード販売機4は紙幣等の貨幣の投入ばかりでなく景品カード136を使用しても玉貸カード19の販売が可能である。その場合には、景品カード136を景品カード投入口24に投入する。すると景品カード識別機25により投入された景品カード136が適正カードであるか否かを識別し、不適正カードであった場合には投入カードを利用者に返却したり不正カードが投入されたことを遊技場の係員に報知したりする異常処理が行なわれる。投入カードが適正なカードであった場合にはその投入カードに記録されているカード情報が景品カード識別機25により読取られ、次に利用者が暗証番号を暗証番号入力キー29から入力する。そしてその入力された暗証番号が正しい番号であった場合には投入された景品カード136に記録されている残額すなわち景品金額が金額表示器23により表示される。利用者はこの金額表示器23により表示された金額の範囲内で販売カード選択ボタン36を選択操作し、前述と同様にして希望する金額の玉貸カード134を購入すること

が可能となる。そして、希望する金額の玉貸カード134を購入した後の景品カード136の残り金額すなわち景品残金額が金額表示器23により表示され、投入されている景品カードの残額をその金額表示器23により表示されている景品残金額に更新してその更新された後の景品カードが景品カード投入口24から利用者側に返却される。なお、図中20は処理器番号表示部でありこの玉貸カード販売機4の番号が表示される。また21は販売中表示器、22は販売中止表示器であり、この玉貸カード販売機4が玉貸カード134を販売している最中では販売中止表示器22が消灯して販売中表示器21が点灯表示される。逆にこの玉貸カード販売機4が販売中ではなかった場合には販売中表示器21が消灯し、販売中止表示器22が点灯表示される。図中37は投入紙幣充満表示部であり、紙幣投入口26から投入された紙幣により紙幣収納部28が満杯になりそれ以上紙幣が投入できない状態になった場合にこの投入紙幣充満表示部37が点灯または点滅表示され、投入紙幣が満杯になった旨を遊技場の係員に表示できるように構成されている。38は釣銭紙幣欠乏表示部であり、釣銭払出装34によって利用者に払出すために貯留している釣銭紙幣が欠乏した場合にこの釣銭紙幣欠乏表示部38が点灯または点滅表示し、その旨を遊技場の係員に報知できるように構成されている。39は玉貸カード欠乏表示部であり、遊技者に販売するために貯留している玉貸カード134が欠乏した場合にこの玉貸カード欠乏表示部39が点灯または点滅表示され、その旨を遊技場の係員に報知できるように構成されている。

【0029】この玉貸カード販売機4によって販売された玉貸カード134を使用して利用者が遊技を行なう場合には、遊技場100の遊技機設置島に設置されているカード処理機(カード玉貸機)3の玉貸カード投入口12に玉貸カード134を挿入する。このカード処理機(カード玉貸機)3は、設置島1に複数台設置されている各パチンコ機2に隣接して設けられており、それぞれの隣接するパチンコ機に対応するものである。ゆえに、たとえば図示中央のパチンコ機2によって遊技を行ないたい場合には図示中央のパチンコ機の向かって左側に隣接しているカード処理機(カード玉貸機)3の玉貸カード投入口12に玉貸カード134を投入する必要がある。玉貸カード投入口12に玉貸カード134を投入して利用者がパチンコ機2に使用せんとする金額を金額選択ボタン14を操作して指定すれば、その指定された金額に対応する個数の遊技玉がパチンコ機2に払出されて、遊技領域に弾発発射する弾球遊技が可能となる。そして、玉貸カード投入口12から投入された玉貸カード134の残額から前記金額選択ボタン14によって選択された金額を減算した残金額が残金額表示器13により表示される。一方、弾球遊技に伴って遊技領域に打込まれたパチンコ玉が入賞する等の所定の遊技状態が発生す

ればその所定の遊技状態の発生に基づいて所定の遊技価値が遊技者に付与されるのであり、その付与される遊技価値に相当する得点がクレジット表示器15に加算表示される。一方、前記弾球遊技に用いられるパチンコ玉に相当する得点がクレジット表示器15で表示されている得点から減算されその減算された後の得点がクレジット表示器15によって表示される。そして、遊技者が図示しない終了ボタンを押圧操作した場合やパチンコ機2が打止になった場合には、クレジット表示器15により表示されている得点に相当する景品玉が遊技者に払出される。

【0030】遊技者はその払出された景品玉を景品処理装置5の景品玉計数器7に投入する。

【0031】景品玉計数器7では、投入された景品玉を計数してその係数値を配線7aを介して景品処理装置本体5'に入力する。この景品玉計数器7により、遊技者に付与された価値物体を計数して該価値物体が有する付与有価価値の大きさを算出する算出手段が構成されている。なお、この景品玉計数器7を景品処理装置本体5'内に組込んでよい。景品処理装置本体5'では、その入力された景品玉情報の範囲内で、景品カード136を新規発行したり増額更新したり特殊景品138を払出したり、玉数カード19を払出したりする。

【0032】景品処理装置5により新規景品カード136を払出す場合には、まず、遊技者に規定の用紙に住所、氏名、電話番号等の必要事項を手書で記入してもらい、その記入用紙を記入用紙投入口63に投入してもらう。記入用紙投入口63に投入された記入用紙は、光学的文字読取装置たとえばOCR等からなる文字読取装置64により読取られ、その後記入用紙が記入用紙収納部65に収納される。文字読取装置64で読取った結果識別可能と判断されれば可能な旨の表示をブラウン管表示器76により表示し、識別不可能であった場合には不能原因をブラウン管表示器76により表示する。そして、識別可能であった場合には、景品カード登録キー84を遊技者が押圧して、景品カード収納部62に収納されている景品カードを1枚取出して識別機61により識別するとともに必要な情報をその景品カード136に書込んで景品カード投入・排出口60からその景品カード136を払出す。

【0033】次に、特殊景品138を払出す場合には、まず遊技者が景品玉計数器7に景品玉を投入する。すると、景品玉表示器74にその投入玉数が表示され、遊技者が特殊景品払出キー78を押圧操作すれば、特殊景品138の内訳がブラウン管表示器76により表示される。この特殊景品の内訳とは、たとえば、景品玉計数器7に投入された景品玉の合計金額が7000円だったとした場合に、5000円の価値を有する特殊景品1個と1000円の価値を有する特殊景品2個とを払出す旨の表示である。次に遊技者が確認キー83を押圧操作す

ば、そのブラウン管表示器76で表示されている内訳どおりの特殊景品138が特殊景品収納部68から取出されて特殊景品払出装67により特殊景品払出口66から遊技者側に払出される。その後、レシート発行装置73によりレシートが印字されてレシート発行口72から遊技者側にレシートが払出される。

【0034】次に、一般景品と景品交換可能な玉数カードを払出す場合には、まず遊技者が景品玉計数器7に景品玉を投入する。すると、前述と同様に景品玉表示器74にその投入玉数が表示され、そのうち遊技者が一般景品玉数カード払出キー79を押圧操作する。すると、一般景品玉数カード払出装70により一般景品玉数カード収納部71から一般景品玉数カードが取出されて前記投入した景品玉数データが記録されて一般景品玉数カード払出口69から遊技者側にその玉数カード19が払出される。

【0035】次に、景品カード136を増額更新する場合には、まず遊技者が景品玉計数器7に景品玉を投入し、その投入玉数が玉数表示器74により表示され、次に遊技者が景品カード投入・払出口60に自己の所有する景品カード136を挿入する。次に遊技者が暗証番号を数字キー75から入力する。すると、挿入された景品カードに記録されている残景品金額がブラウン管表示器76により表示される。この残景品金額とは、挿入された景品カードに既に記録されている金額のことである。次に遊技者が景品更新キー80を押圧操作すると、挿入された景品カード136に対し、投入景品玉に相当する景品金額を加算更新した新たな景品金額が景品カード識別器61により書込まれる。そして新たな景品金額が書込まれた景品カード136が景品カード挿入・排出口60から遊技者側に払出される。その後レシート発行口72からレシートが発行される。この景品カード識別器61により、所定の会員向けに発行された会員用記録媒体により特定される有価価値に対し、前記算出手段によって算出された付与有価価値を加算可能な有価価値加算手段が構成されている。また、この有価価値加算手段は、前記付与有価価値のすべてを加算するものでもよく、また、利用者による加算額の指定操作等に基づいて、前記付与有価価値の範囲内で指定された有価価値だけ加算するものでもよい。

【0036】次に、利用者が自己の景品カード136を使用して遊技場のカウンタ114に備えられている景品カタログを見てそのカタログに掲載されている景品を入手したい場合には、まず自己の景品カード136を景品カード投入・払出口60に投入する。次に暗証番号を数字キー75により入力する。すると投入された景品カード136に記録されている残額景品金額がブラウン管表示器76により表示され、次に景品番号指定キー81を押圧操作した後、カタログ等を見て予め決めている希望の景品の景品番号を数字キー75から入力する。すると

その入力された景品番号がブラウン管表示器76により表示される。次に景品個数指定キー82を押圧操作した後に希望の景品の個数を数字キー75から入力する。するとブラウン管表示器76によりその入力された個数が表示される。その段階で、投入した景品カードに記録されている残景品金額等が不足する場合などのエラーの場合には、そのエラーの原因がブラウン管表示器76により表示される。エラーでない場合であってかつ利用者が確認キー83を押圧操作すればレシート141(図7参照)がレシート発行装置73により印字されてレシート発行口72から利用者に発行される。そして、投入された景品カード136は、景品交換に用いられた金額を減算した新たな残景品金額に更新されて景品カード投入・排出口60から利用者に返却される。なお、図中10aは景品処理装置5とターミナルボックス110とを接続する接続配線であり、この接続配線10a、ターミナルボックス110を介して、前述した景品カードの新規発行時に入力された利用者の住所、氏名、電話番号等の必要事項に関する情報が景品カード発行会社104の集中管理コンピュータ112に伝送される。つまり、この景品処理装置5には、前記会員用記録媒体の発行元に前記会員用記録媒体の管理を行なうための情報を提供するため、少なくとも前記有価価値加算手段によって加算された有価価値情報を出力する情報出力手段が含まれている。さらに、前述した数字キー75から入力された景品番号や景品個数ならびに投入された景品カード136のカードナンバー等がこの接続配線10aとターミナルボックス110とを介して景品カード発行会社104の集中管理コンピュータ112に伝送される。集中管理コンピュータ112では、伝送されてきた利用者の住所、氏名、電話番号等の必要事項をその利用者が所持している景品カードの番号と対応させて記憶しており、景品カード136のカード番号が伝送されてくればそのカード番号からその景品カード136の所持者の住所、氏名、電話番号等の必要事項を割出し、その利用者の住所に近い加盟店の加盟店用管理コンピュータに景品番号とその個数情報ならびに景品の送り先である利用者の住所、氏名、電話番号等が送信される。

【0037】そして後日その加盟店から利用者の希望する景品が希望する個数だけ利用者に配達される。なお、図中77は景品処理装置5を制御するためのマイクロコンピュータ等からなる制御部である。また、20は処理器番号表示部、21'は作動中である旨を表示する作動中表示器、22'は作動を中止している旨を表示する作動中止表示器である。

【0038】景品処理装置5から払出された特殊景品を現金に交換したい場合には、利用者が特殊景品138を銀行108にまで持参し、銀行108に設置されている特殊景品交換装置(特殊景品精算機)8の特殊景品投入口52から特殊景品138を投入する。すると、投入さ

れた特殊景品138に見合った金額が金額表示器59により表示され、利用者が確認キー58を押圧操作すれば、紙幣払出装置51'が作動して紙幣が紙幣払出口50から利用者に払出されるとともに、必要に応じて硬貨払出装置54'が作動して硬貨払出口54から硬貨が利用者に払出される。その払出される紙幣や硬貨からなる貨幣の金額は金額表示器59により表示された金額に一致するように制御される。その後レシート発行装置57が作動して所定事項が印刷されたレシートがレシート発行口56から利用者に発行される。なお図中777はマイクロコンピュータ等からなる制御部である。また20は処理機番号表示器、21は販売中表示器、22は販売中止表示器である。また、この特殊景品交換装置(特殊景品精算機)8がターミナルボックス116を介して景品カード発行会社104の集中管理コンピュータ112に接続されており、特殊景品138の景品カード発行会社104への入庫数が集中管理コンピュータ112に伝送されるようになっている。

【0039】図3は玉数カード19に記録されている記録情報を説明するための説明図である。玉数カード19の磁気ストライプ133には、図示するように、その玉数カード19が発行された遊技場を特定できる遊技店コード、その玉数カード19が発行されたカード発行年月日、玉数カード19の番号であるカード番号、玉数情報、玉数カード19のセキュリティを向上させるためのセキュリティコード等が記録されている。

【0040】図4は、玉貸カードに記録されている記録情報を説明するための説明図である。

【0041】玉貸カード134の磁気スライプ135には、玉貸カード134の番号であるカード番号、残額情報、カードセキュリティを向上させるためのセキュリティコード等が記録されている。

【0042】図5は、景品カードに記録されている記録情報を説明するための説明図である。

【0043】景品カード136の磁気スライプ137には、この景品カード136の使用有効期限を特定するためのカード有効期限、景品カード136の番号であるカード番号、残額(残景品金額)、景品カード136のセキュリティを向上させるためのセキュリティコード等が記録されている。

【0044】図6は、特殊景品を示す正面図である。特殊景品138はプレート状の樹脂の一部に磁気ストライプ139が形成された磁気カードで構成されている。この磁気ストライプ139には、この特殊景品138が発行された番号である発行番号、この特殊景品138のセキュリティを向上させるためのセキュリティコード等が記録されている。さらに、特殊景品138の一部には、その特殊景品138の景品価値に見合った値打を有する金のチップ140が組込まれている。

【0045】図7は、景品交換所102でカタログを利

13

用して景品を選択して景品交換を行なった場合に景品処理装置(景品カード処理器)9から発行されたレシートであり、図示したような情報が印刷されている。図3～図6に示した各種カードおよび図7に示した特殊景品は磁気カードに限らず、ICカード、光カード(光ディスクメモリを利用したもの)、感熱式カード、バーコードを付したカード、パンチ孔を穿設したカード等、種々のもので構成してもよい。また、図3～図5に示した各種カードには玉数情報や残額情報を記録し更新するようにしたが、玉数情報や残額情報をカードに記録することなく、カード番号を元にしてホール用管理コンピュータ6

や集中管理コンピュータ111、112において玉数情報や残額情報を更新するようにしてもよい。
【0046】図8は、景品カード発行会社に設置されている集中管理コンピュータおよびその集中管理コンピュータに接続される各種機器を説明するための説明図である。

【0047】集中管理コンピュータ112には補助コンピュータ112'が接続されており、この補助コンピュータ112'にはCRTディスプレイ142とキーボード144とプリンタ143とが接続されている。補助コンピュータ112'の電源スイッチ160に所定のオペレータが所持するキーを差込み操作することにより、キーボード144が能動化される。キーボード144には、遊技場(ホール)別のデータを集計するためのホール別集計キー151、加盟店別の売上を集計するための店別売上キー152、景品カード別のデータを集計するためのカード別集計キー153、特殊景品の出入庫データを集計するための景品出入庫キー154、事故カードデータを集計するための事故キー155、プリンタ143により所定のデータを印字させるための印字キー156が設けられている。前記各種のキー151～155を操作することにより、前述したそれぞれのデータが集計されてその集計結果がCRTディスプレイ142により表示される(図9～図11)。さらにキーボード144には、数字等を入力するためのテンキー157、文字情報を入力するための文字情報入力キー159やその他の機能キー158が設けられている。

【0048】図9は、景品カード発行会社の集中管理コンピュータによって行なわれたホール別集計情報を示す図である。

【0049】第1行目のB、Cは遊技場(ホール)の名称を示しており、2行目は集計されたデータの種類の明示したものである。すなわち、「景品カード更新額」は、景品処理装置5(図1、図2参照)によって増額更新された景品カードの更新額を意味し、増額更新の際に集中管理コンピュータ112に送信してきたデータの送信元であるターミナルボックスの番号等によって、景品カード発行会社104が請求する請求先の遊技場が特定される。なお、景品処理装置5の処理器番号を元に請求

14

先の遊技場を特定するようにしてもよい。増額更新データとともに遊技場コードをターミナルボックスから集中管理コンピュータ112に送信させるようにしてもよい。「特殊景品出庫額」は、景品カード発行会社104からその遊技場に出荷された特殊景品138の金額を意味する。「玉貸カード売上額」は、玉貸カード販売機4(図1、図2参照)を利用して景品カード136により玉貸カード134が販売されたその玉貸カード134の売上額を意味する。そして図示一番左の列は日付を示しており、たとえば10月1日のBホールでの景品カード更新額は3,481,926円であり、特殊景品出庫額は7,000,000円であり、玉貸カード売上額は2,756,000円である。なお10月2日、10月30日のBホールおよび10月3日、10月31日のCホールのデータがそれぞれ「0」になっているが、これは10月2日、10月30日はBホールが休みの日であり、10月3日、10月31日はCホールが休みの日であり、営業を行なわなかったためである。さらに、景品カード更新額、特殊景品出庫額、玉貸カード売上額の10月1日から10月31日までの1ヵ月間の合計額がそれぞれ表示されるとともに、景品カード発行会社104から各遊技場に代金を請求する請求額が算出されて表示される。たとえばBホールの場合は、景品カード更新額に対する1ヵ月の請求額は合計額と同じ87,649,307円となり、特殊景品出庫額は合計額に対し一定の手数料を上乗せした207,302,500円が請求額となり、さらに玉貸カード売上額に対しては合計額に対し手数料が差引かれた71,441,470円が景品カード発行会社104からBホール100に支払われることになる。それらの請求額の差額が一番下の行に223,510,337円と示されている。また、景品処理装置5に入力された景品玉数データの合計すなわち遊技場100が払出した景品玉の合計データを景品カード発行会社104の集中管理コンピュータ112に送信し、集中管理コンピュータ112では、その送信されてきたデータに基づいて遊技場ごとの景品玉計数合計を集計して表示するようにしてもよい。その場合には、後述の図14に示す遊技場ごとのカード玉賃額の集計データとこの景品玉計数合計データとに基づいて、遊技場ごとの利益を割出すことができ、遊技場の経理がガラス張り化されて脱税等を防止できる。

【0050】図10は、景品カード発行会社の集中管理コンピュータによって集計されたカード別集計データを示す図である。図中、一番上の行には景品カードのカード番号が示されており、その下の行には前の月の景品カードの景品残額が示されている。そして、10月1日から10月31日までの1日ごとの景品カードの増額更新額と使用金額が示されている。たとえば10月1日にはカード番号12001の景品カードが5,300円増額更新されているとともに15,000円使用されてい

ることがわかる。そして、10月1日から10月31日までの1ヵ月の増額更新額と使用金額それぞれの合計が算出されて示され、前月残金額と増額更新金額の合計との和から使用金額合計を減算した金額は10月31日現在における景品カードの残額30,400円となる。

【0051】図11は、加盟店別売上データを示す図である。図中一番上の行は各加盟店の店名が示されており、その下の数字は、10月1日から10月31日までの各加盟店別の景品カード136を使用しての売上金額が示されている。そしてその1ヵ月の売上合計が算出されて示され、その売上合計の下には各加盟店が景品カード発行会社104に支払う手数料が示されている。そして売上合計からその手数料を差引いた残りの金額は景品カード発行会社104から各加盟店に支払われる振込み金額であり、たとえばD加盟店の場合には2,091,999円となる。

【0052】図12は、事故カードデータの集計を示す図である。図中一番左の列には事故カードのカード番号が示されており、紛失カードの場合には紛失した者からの申告があってその後申告されたカードのカード番号が登録される。たとえば図10のカード番号12003のカードの場合には、10月1日に6,500円増額更新されたのを最後に全く使用や増額更新されていない。そしてこのカード番号12003の所持者から紛失した旨の申告が1990年10月2日にあったためにその申告カードを事故カードとして登録するとともに図10の残高を示す金額の前に*印が付されて表示される。一方、図12に示すカード番号12004のカードは残高が改竄されたカードであり、図10に示すカード番号12004の欄のデータを見てもわかるように、10月1日現在で景品残金額が「0」になっているにもかかわらず10月1日に36,000円使用されているのであり、この10月1日時点で残高が改竄されたことがわかる。ゆえに、その10月1日時点で事故カードとして登録されるのである。この残高が改竄された事故カードに対しては、図10に示すように、残高の数字の前に☆印が付されて表示される。図12に示した事故カード情報は、各遊技場100,101や景品交換所102や加盟店106等へ送信され、それらの場所で事故カードが使用されれば即座に警報を鳴らす等して事故処理が行なえるようにする。

【0053】図13は、特殊景品の入出庫データを表わす図である。特殊景品138は2,000円と500円と100円の3種類があり、景品入庫数とは銀行108から景品カード発行会社104に返却されてきた特殊景品138の数を特殊景品138の種類ごとに示したものである。一方、景品出庫数と景品カード発行会社104から各遊技場100,101に出荷された特殊景品138の数をそれぞれの特殊景品138の種類ごとに示したものである。そして10月1日から10月31日までの

特殊景品138の出庫数の合計が各遊技場ごとにかつ各特殊景品の種類ごとに算出されて示されている。さらに、各遊技場ごとに1ヵ月間の間に出荷された特殊景品138の合計金額が示され、その合計金額に手数料を上乗せした金額が各遊技場に請求する請求額となる。たとえばBホールにおいては、10月1日から10月31日までの1ヵ月間の特殊景品138の請求額として207,302,500円となる。図示右欄の景品在庫数は、10月1日から10月31日までの景品カード発行会社104の景品在庫数を特殊景品の種類ごとに示したものである。

【0054】図14は、玉貸カード販売会社103の集中管理コンピュータ111によって集計された玉貸カードのホール別売上データを示す図である。

【0055】図中、「カード売上額」とは、各遊技場100,101の玉貸カード販売機4によって販売された玉貸カード134の売上額を意味し、10月1日から10月31日までの1ヵ月間の売上額が示されている。

「カード玉貸額」は、玉貸カード134を使用してカード処理機(カード玉貸機)3によって貸出された玉貸額を意味し、10月1日から10月31日までの1ヵ月間の玉貸額が示されている。「差額」は、カード売上額からカード玉貸額を減算した金額を意味し、10月1日から10月31日までの1ヵ月間の金額が示されている。

「カード負担額」とは、ある遊技場が玉貸カード134の製造代金を負担する金額を意味し、たとえばBホールでは1ヵ月間のカード負担額として1,263,517円となる。このカード負担額の算出方法は、すべての遊技場および玉貸カード販売店によって販売された玉貸カードの販売枚数を集中管理コンピュータ111で算出し、その販売枚数合計に玉貸カード1枚当りの製造代金を掛けて1ヵ月間におけるカード製造代金の合計をまず算出する。そして、ある遊技場の1ヵ月のカード玉貸額をすべての遊技場におけるカード玉貸額の合計で除した値を算出し、その値がその遊技場におけるカード負担割合となる。そしてそのカード負担割合に前述したカード製造代金の合計を掛けた値がその遊技場における1ヵ月間のカード負担額となる。

【0056】

【発明の効果】本発明は、遊技の結果遊技者に付与される付与有価価値を会員用記録媒体を用いた景品交換に使用できるために、その会員用記録媒体を取扱う取扱店ができた場合には、遊技場の経営面の負担を抑えながらその取扱店が取扱っている多くの種類の景品の中から遊技者が選択して景品交換することが可能となる。しかも、この景品処理装置1台で、会員用記録媒体の新規発行と付与された価値物体の有する付与有価価値の算出と会員用記録媒体により特定される有価価値に対する前記付与有価価値の加算処理とが可能となるのであり、遊技場が会員用記録媒体による景品交換サービスを採用する

のに最低限必要な機能をほぼ備えているために、遊技場においては、この景品処理装置を最低限1台導入することにより会員用記録媒体による景品交換サービスがほぼ開始可能な状態となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る景品処理装置が用いられる遊技用管理設備装置の一例の概略を示すシステムブロック図である。

【図2】遊技場の要部を示す構成図である。

【図3】玉数カードに記録される情報を説明するための説明図である。

【図4】玉貸カードに記録される情報を説明するための説明図である。

【図5】景品カードに記録される情報を説明するための説明図である。

【図6】特殊景品を示す正面図である。

【図7】レシートの印字内容を示す正面図である。

【図8】カード発行会社の集中管理コンピュータおよびその集中管理コンピュータに接続される各種機器を示す説明図である。

【図9】景品カード発行会社の管理コンピュータによって集計されたホール別集計データを示す図である。

【図10】景品カード発行会社の集中管理コンピュータによって集計されたカード別集計データを示す図であ

る。

【図11】景品カード発行会社の集中管理コンピュータによって集計された加盟店別売上データを示す図である。

【図12】景品カード発行会社の集中管理コンピュータによって集計された事故カードの集計データを示す図である。

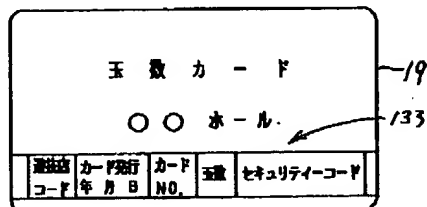
【図13】景品カード発行会社の集中管理コンピュータによって集計された特殊景品の入出庫データを示す図である。

【図14】玉貸カード発行会社の集中管理コンピュータによって集計されたホール別売上データを示す図である。

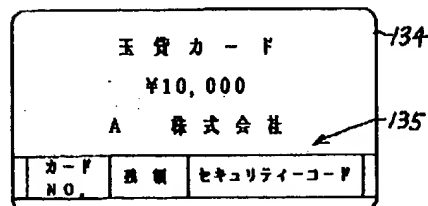
【符号の説明】

104は景品カード発行会社、112は集中管理コンピュータ、103は玉貸カード発行会社、111は集中管理コンピュータ、100、101は遊技場、108は銀行、6はホール用管理コンピュータ、7は景品玉計数器、2は遊技機の一例のパチンコ機、3はカード処理機、4は玉貸カード販売機、5は景品処理装置、61は景品カード識別機、67は特殊景品払出装置、70は一般景品玉数カード払出装置、19は玉数カード、134は玉貸カード、136は景品カード、138は特殊景品である。

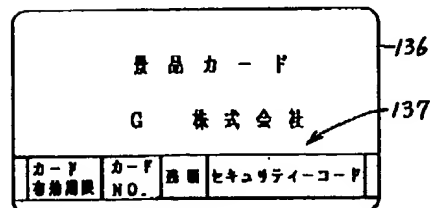
【図3】



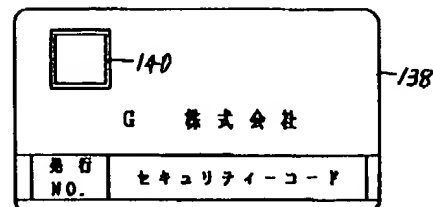
【図4】



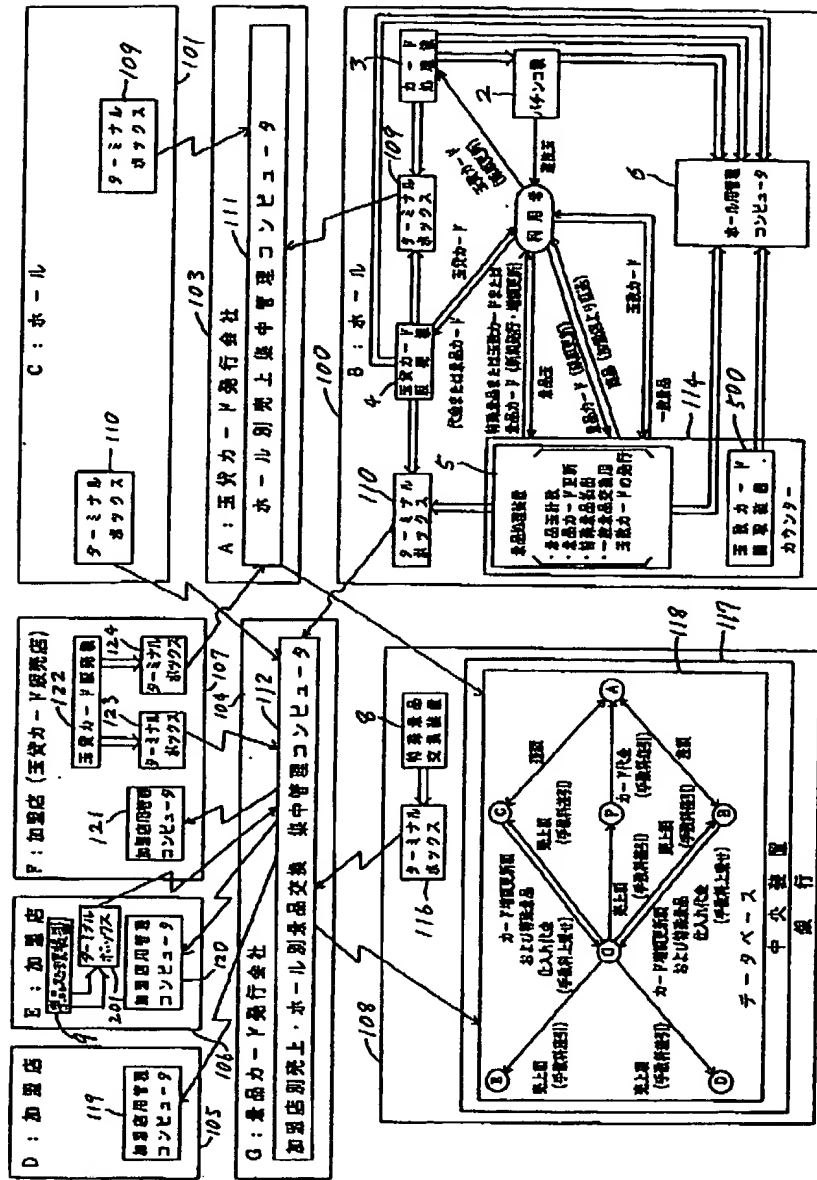
【図5】



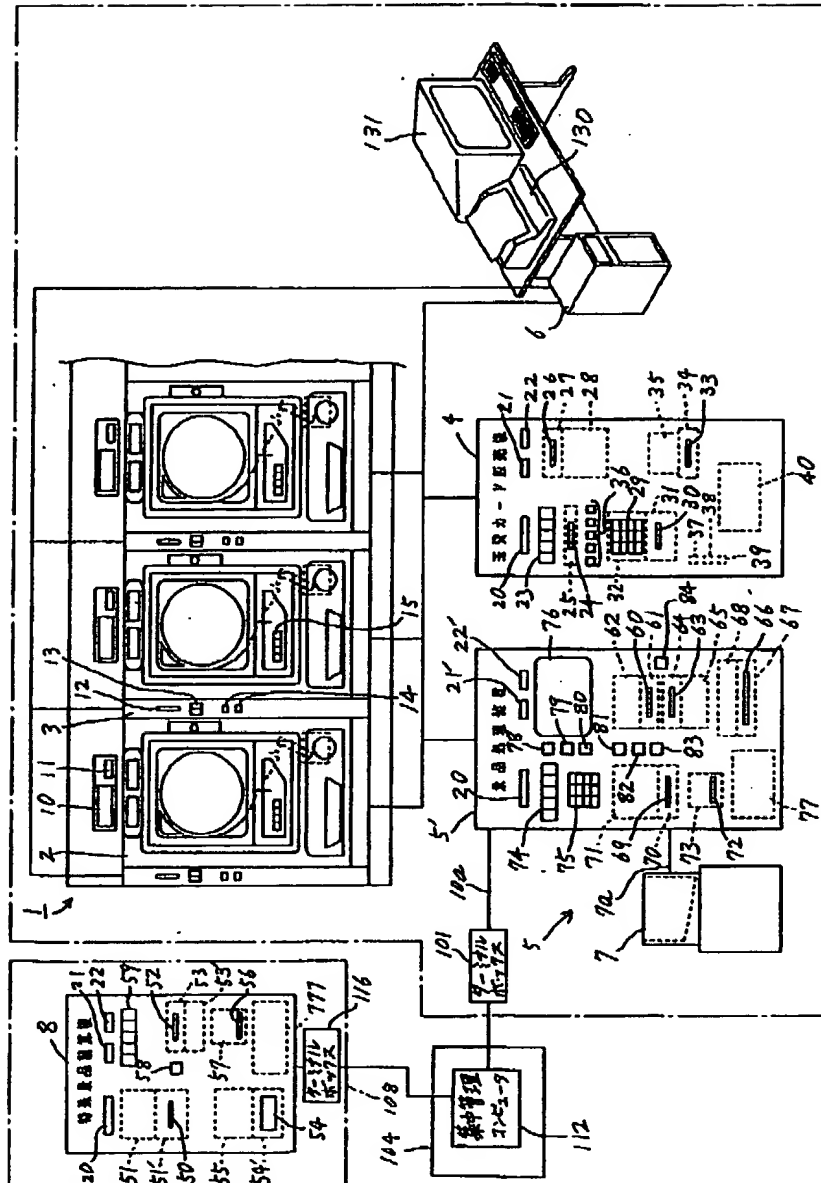
【図6】



【図1】



【図2】



【図7】

景品カード発行会社

発行日時 90年11月13日 PM3:08

取扱景品カード処理機 NO. 86

景品カード NO. 12001

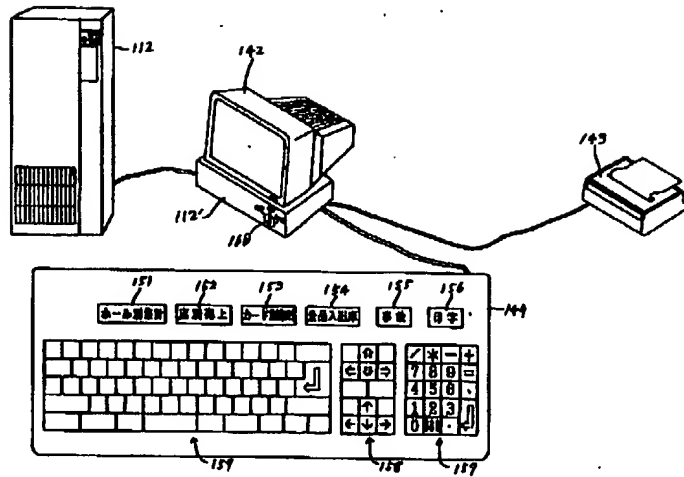
景品カード所持者 ○ ○ ○ ○

景品名	景品個数
1. ×××	3
2. △△△	1

発行予定日 90年11月16日

連絡先 ××× - △△△△

【図8】



【図9】

水 - ル 別 集 計

水 - ル 名	B			C			
月 日	景品カード所持者	景品カード処理機	景品カード処理機	景品カード所持者	景品カード処理機	景品カード処理機	
10/1	3,481,000	7,000,000	2,750,000	4,782,010	6,500,000	3,437,000	-----
10/2	0	0	0	5,840,831	10,000,000	4,210,000	-----
10/3	3,035,432	8,450,000	3,110,000	0	0	0	-----
10/30	0	0	0	4,002,400	12,300,000	4,720,000	-----
10/31	3,330,760	8,450,000	2,900,000	0	0	0	-----
合 計 額	87,040,307	205,250,000	73,351,000	124,750,320	255,800,000	85,041,000	-----
計 算 額	87,040,307	205,250,000	73,351,000	124,750,320	255,800,000	85,041,000	-----
差 額	223,510,337			223,510,337			-----

【図12】

事故カード集計

カードNO.	事故発生日	事故の種類
12003	90.10.2	紛失
12004	90.10.1	盗難
1	1	1
1	1	1
1	1	1
1	1	1

【図11】

店別売上 (地域コード 0120)

月 日	D	E	F	合 計
10/1	78,200	45,100	2,388,000	2,511,300
10/2	83,400	0	1,457,000	1,540,400
10/31	48,000	63,400	1,488,000	1,600,400
地上合計	210,600	1,088,500	5,333,000	6,632,100
手帳額	84,281	28,048	1,877,010	2,000,339
差 額	1,261,319	1,060,452	3,456,000	3,778,261

【図10】

力-F別集計 (力-FNO. 12001~12020)

力-FNO.	12001		12002		12003		12004		
期月別	12.000		78.000		33.000		0		
月 日	支 出	使 用	支 出	使 用	支 出	使 用	支 出	使 用	
10/1	5,300	10,000	10,000	10,000	0,000	0	0	10,000	
10/2	10,000	0	10,000	0,000	0	0	0	0	
10/3	0	0,000	0,000	10,000	0	0	0	0	
10/30	0,000	0,000	0,000	0	0	0	0	0	
10/31	0,000	0,000	10,000	0	0	0	0	0	
合 計	107,000	100,000	107,000	107,000	0,000	0	0	10,000	
期 末	10.000		100.000		0.000		0.000		

【図13】

景 品 入 部 庫

期 日	景 品 入 庫 額			景 品 出 庫 額						景 品 安 庫 額		
	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000	10.000
10/1	10,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000
10/2	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000
10/3	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000
10/30	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000
10/31	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000
合 計	10,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000	0,000
期 末	10.000			0.000						10.000		

【図14】

本 一 月 別 売 上

ホ-ル名	B			C			-----
	カ-ド売上額	カ-ド玉貸額	差 額	カ-ド売上額	カ-ド玉貸額	差 額	
10/1	7,123,000	8,750,300	-1,627,300	8,017,000	11,042,500	-3,025,500	-----
10/2	0	0	0	11,204,000	14,520,000	-3,316,000	-----
10/3	10,042,000	10,852,700	-810,700	0	0	0	-----
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
10/29	0	0	0	10,325,000	4,672,000	5,653,000	-----
10/31	11,002,000	9,194,100	1,807,900	0	0	0	-----
合 計	102,400,000	224,075,000	-121,675,000	227,400,000	225,300,000	2,100,000	-----
カ-ド内訳	1,802,517 (0.0501%)			1,007,070 (0.00421%)			-----
差 額	-20,812,000			-10,020,000			-----

【手続補正書】

【提出日】平成12年7月7日(2000.7.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正内容】

【発明の名称】景品管理装置

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 遊技機を用いた遊技の結果に応じて遊技者に付与される景品に関する情報を管理する景品管理装置であって、
該景品管理装置は、前記景品のうちの特殊景品の出庫数が該特殊景品の種類別に集計された集計データを生成することを特徴とする、景品管理装置。

【請求項2】 前記特殊景品の出庫数が複数日間にわたって合計された集計データを生成可能であることを特徴とする、請求項1に記載の景品管理装置。

【請求項3】 すべての種類の特殊景品の出庫合計額を示す集計データを生成することを特徴とする、請求項1または請求項2に記載の景品管理装置。

【請求項4】 1日単位の前記集計データを生成することを特徴とする、請求項3に記載の景品管理装置。

【請求項5】 前記特殊景品の在庫数が該特殊景品の種類別に集計された集計データを生成することを特徴とする、請求項1～請求項4のいずれかに記載の景品管理装

置。

【請求項6】 前記集計データを表示することを特徴とする、請求項1～請求項5のいずれかに記載の景品管理装置。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0001

【補正方法】変更

【補正内容】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、景品管理装置に関し、詳しくは、遊技機を用いた遊技の結果に応じて遊技者に付与される景品に関する情報を管理する景品管理装置に関する。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0002

【補正方法】変更

【補正内容】

【0002】

【従来の技術】遊技場においては、たとえば、遊技機の一例となるパチンコ遊技機による遊技の結果、遊技者に払出された賞球を所定の景品と交換する景品交換サービスが従来から行われている。この種の景品交換サービスにおいて遊技者に提供される景品として、通常、ガムやキャラメルなどのような一般景品とは別に、所定の換金所において金銭と交換可能な特殊景品が用意されている。また、その特殊景品自体として金銭価値の異なる複数種類のものが用意されており、それら複数種類の特殊景品を組合せることによって、遊技結果に応じた特殊景

品が遊技者に付与される。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正内容】

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、特殊景品は、直接現金と交換できるという性格を有するために、その入庫／出庫の管理は一般景品と比較して特に重要であるといえる。しかしながら、従来、特殊景品の入庫／出庫の管理は人手により行われていたために、管理負担が大きいという問題があった。特に、特殊景品は1種類ではなく複数種類であることから、さらにその管理が煩雑であり、また管理の重要度も高いことから管理者の心的負担も大きくなるという問題があった。本発明は、かかる実情に鑑み考え出されたものであり、その目的は、特殊景品の管理負担を軽減可能な景品管理装置を提供することである。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】削除

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0005

【補正方法】削除

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】削除

【手続補正9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正内容】

【0007】

【課題を解決するための手段】請求項1に記載の本発明は、遊技機を用いた遊技の結果に応じて遊技者に付与される景品に関する情報を管理する景品管理装置（たとえば、集中管理コンピュータ112、補助コンピュータ112'、CRTディスプレイ142）であって、該景品管理装置は、前記景品のうちの特殊景品（138）の出庫数が該特殊景品の種類別（たとえば、2000円、500円、100円）に集計された集計データ（たとえば、図13に示される「景品出庫数」のデータ）を生成することを特徴とする。請求項2に記載の本発明は、請求項1に記載の発明の構成に加えて、前記特殊景品の出庫数が複数日間にわたって合計された集計データ（たとえば、図13に示される2000円の特殊景品の景品出

庫数の1ヶ月分のデータ）を生成可能であることを特徴とする。請求項3に記載の本発明は、請求項1または請求項2に記載の発明の構成に加えて、すべての種類の特殊景品の出庫合計額を示す集計データ（たとえば、図9に示される「特殊景品出庫額」のデータ、図13に示される「合計額」のデータ）を生成することを特徴とする。請求項4に記載の本発明は、請求項3に記載の発明の構成に加えて、1日単位の前記集計データ（たとえば、図9に示される「特殊景品出庫額」のデータ）を生成することを特徴とする。請求項5に記載の本発明は、請求項1～請求項4のいずれかに記載の発明の構成に加えて、前記特殊景品の在庫数が該特殊景品の種類別に集計された集計データ（たとえば、図13に示される「景品在庫数」のデータ）を生成することを特徴とする。請求項6に記載の本発明は、請求項1～請求項5のいずれかに記載の発明の構成に加えて、前記集計データを表示する（たとえば、CRTディスプレイ142により表示）ことを特徴とする。

【手続補正10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正内容】

【0008】

【作用】請求項1に記載の本発明によれば、遊技機を用いた遊技の結果に応じて遊技者に付与される景品のうちの特殊景品の出庫数が該特殊景品の種類別に集計された集計データが、景品管理装置によって生成される。請求項2に記載の本発明によれば、請求項1に記載の発明の作用に加えて、前記特殊景品の出庫数が複数日間にわたって合計された集計データが、景品管理装置によって生成される。請求項3に記載の本発明によれば、請求項1または請求項2に記載の発明の作用に加えて、すべての種類の特殊景品の出庫合計額を示す集計データが、景品管理装置によって生成される。請求項4に記載の本発明によれば、請求項3に記載の発明の作用に加えて、すべての種類の特殊景品の1日単位の出庫合計額を示す集計データが、景品管理装置によって生成される。請求項5に記載の本発明によれば、請求項1～請求項4のいずれかに記載の発明の作用に加えて、前記特殊景品の在庫数が該特殊景品の種類別に集計された集計データが、景品管理装置によって生成される。請求項6に記載の本発明によれば、請求項1～請求項5のいずれかに記載の発明の作用に加えて、前記集計データが景品管理装置によって表示される。

【手続補正11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】削除

【手続補正12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0056

【補正方法】変更

【補正内容】

【0056】

【発明の効果】請求項1に記載の本発明によれば、特殊景品の出庫数がその種類別に集計された集計データが生成されるために、特殊景品の出庫数を容易に管理できるようになり、特殊景品を管理する者の管理負担を軽減できる。請求項2に記載の本発明によれば、請求項1に記載の発明の効果に加えて、特殊景品の出庫数が複数日間にわたって合計された集計データが生成されるために、特殊景品を管理する者の管理負担をより一層軽減できる。請求項3に記載の本発明によれば、請求項1または

請求項2に記載の発明の効果に加えて、すべての種類の特殊景品の出庫合計額を示す集計データが生成されるために、特殊景品を管理する者の管理負担をより一層軽減できる。請求項4に記載の本発明によれば、請求項3に記載の発明の効果に加えて、1日単位の集計データが生成されるために、特殊景品の出庫状況を日を追って詳細に把握できる。請求項5に記載の本発明によれば、請求項1～請求項4のいずれかに記載の発明の効果に加えて、特殊景品の在庫数がその種類別に集計された集計データが生成されるために、特殊景品の在庫管理を行なう者の管理負担を軽減できる。請求項6に記載の本発明によれば、請求項1～請求項5のいずれかに記載の発明の効果に加えて、集計データが表示されるために集計データを視覚によって容易に把握できる。